

アメリカ

ACT

ACT は非営利の民間テスト機関である ACT Inc. が実施する大学入学者選抜のための共通テスト。ACT は本来 American College Testing の略であったが 1996 年に単に ACT をその正式名称とした。受験者数は 2009 年度で年間延べ 140 万人以上、アメリカ国内では年間 6 回実施されている。同様なテストとして、College Board の主催する SAT があるが、ACT はより高等学校の授業に即したカリキュラムベースの試験である。また SAT がアメリカの両海岸の州での利用が多いのに対し、ACT は中西部および南部での利用が多い。受験生の多いトップ 5 の州は順に、イリノイ、ミシガン、フロリダ、オハイオ、テキサスの各州である。ACT の受験者数はもはや SAT に比べほとんど遜色がなく、東部の有名大学であるアイビーリーグの全ての大学で、SAT の代わりに ACT で受験することができる。

ACT は、英語、数学、読解、科学的推論に関する 4 つのテストとオプションとしてのエッセイ（小論文）試験から構成されている。エッセイ試験を除く全ての試験は、多肢選択方式である。

英語は意味や文の区切りを理解し、状況に応じた表現力と適切な書き取り能力を測定するため、文法、句読点、文章構造、語法と文体の各領域から計 75 問出題される（45 分）。数学は、基本的な操作技術、応用力、分析力を測定するため、代数、幾何、三角関数等から 60 問出題される（60 分）。また、読解に関するテストでは、文章の内

容理解、内容に関する結論、比較、一般化に関する能力を測定するため、散文小説、人文社会や自然科学に関する話題について 40 問出題される（35 分）。科学的推論に関するテストでは、提供された情報の基本的な特徴とそれに関連した概念の認識や理解あるいはその情報から結論を導き出すための論理的思考力を測定するため 40 問が出題される（35 分）。

試験時間は休憩時間を含め全部で 4 時間、正味 2 時間 55 分である。オプションのエッセイ試験は 30 分である。受験料は 2009—2010 年度の場合で \$ 32、エッセイ試験を含む場合で \$ 47 である。ACT は最大で通算 12 回まで受けることができるが、大半の受験生は、ジュニア（卒業前年）とシニア（卒業年）の 2 回、受験する。

SAT

アメリカの大学入学のために実施される標準化された試験。以前は Scholastic Aptitude Test 或は Scholastic Assessment Test の頭文字を採った呼称とされたが、現在では何の略語でもない。単に SAT と略した場合には、SAT Reasoning Test のことを指す。これは論理思考力を測るテストで、Critical Reading（語彙力と文の構造の理解）、Writing（英文法の知識や文章構成力の技量、エッセイを書く技量）、Math（数学）のそれぞれ 200—800 点で、合計 2400 点満点で評価される。

Critical Reading では 3 つのセクションがあり、25 分セクションが 2 回、20 分セクションが 1 回行われる。空欄補充 (Sentence

Completions)、読解(Passage-based Reading)がある。

Writingでは小論文(Short Essay)が25分、文法や解釈にまつわる多岐選択問題(Multiple-choice)が10分セクションと25分セクションにて行われる。

Mathematicsでは3つのセクションがあり、25分セクションが2回、20分セクションが1回行われる。多岐選択問題(Multiple-choice)と数値や式を直接作成して回答する問題(Student-produced responses)とがある。試験時間は全部で3時間45分、10個のセクションがあり、以下のように進行する。

* Section1 Writing・小論文(25分)

* Section2~7 25分セクション

* Section8~9 20分セクション

* Section10 Writing・多岐選択問題(10分)

Section2~9の試験順は受験者によって異なり、個別に指定された順に行う。また、隣り合う受験者と同じ時間に同じ問題を受けないように配慮される。なお、25分セクションの中に必ず1つ余分なダミーのセクションが含まれる。そのセクションの解答は研究用以外に利用されず、成績にも含まない。どのセクションがダミーのセクションなのかは受験者には伝えられない。

SATには他にSAT Subject Testsという大学が指定した科目、あるいは指定した中から受験者が選択して受験するテストがある。各科目とも試験時間は60分で、800点満点。多岐選択式のマークシート方式である。語学のリスニングは問題用CDを持参のCDプレーヤーで再生する。

受験料はSAT Reasoning Testが\$45(国外では\$71)、SAT Subject Testsが基本料

\$20に加えて科目ごとに\$9である。受験者数は2006年度で延べ1,465,744人であった。

SATは、かつてはETSが問題を作成・採点していたが、現在はCB(大学入試協議会)が問題の作成・開発に責任を持っており、ETSは運営だけを移管されている。アメリカの多くの大学が志願者にこのテストの受験を課して、入学者の選抜資料の一つとして利用する。

大学により、受験を要求しないで奨励にとどめ、選抜資料ではなく、入学後の科目履修の指導用資料に使うこともある。

テストは全国一斉に年7回(Subject Testsは6回)実施される。何回でも受験することができ、成績は自分の申告したい回の受験成績を大学に送ることができる(テストセクションごとに良い成績を選ぶことはできない)。2回受験した場合に成績が前回より上がることが報告されているが、3回以上受験しても一般にその効果はほとんどない。

イギリス

GCE

(General Certificate of Education)

イギリスでは、大学入学者の選抜は、個々の大学の学科・コースごとになされているが、個別試験は実施されていない。この選抜に伝統的・一般的に利用されてきたのがGCE Aレベル(General Certificate of Education Advanced Level:主として18歳を対象)やGCE ASレベル(General Certificate of Education Advanced Subsidiary Level:主として17歳を対象)。

GCSE (General Certificate of Secondary Education : 主として 16 歳を対象) などの科目別の学力認定試験である。このうち、合格に大きな影響を及ぼすのが GCE A レベルである。

GCE は、科目別の試験に基づき、A*から E の 6 段階評価(グレード)により学力が認定される。A*が最上位であり E に達しないと不合格である。なお、大学志願にあたっては一般に C 以上の成績をとる必要がある。

試験科目には、数学、生物学、英文学などの他、会計学や演劇など多くの科目が用意されている。試験問題の作成、試験の実施等、管理・運営は、現在、イングランドに 3、ウェールズに 1、アイルランドに 1 ある試験実施団体によって行われている(スコットランドでは、別の種類の試験が実施されている)。なお、試験は、年 2 回(5・6 月と 1 月)実施されている。

各試験科目には、その科目の目的・内容・評価基準などを定めた詳細な「スペシフィケーション (specification)」が作成・公表されている。

大学入学を志願する生徒は、16 歳以降、1 年間かけて AS レベルを、2 年間かけて A レベルの科目を学習する。AS レベルと A レベルの関係は次のようである。

A レベル、AS レベルの内容はいくつかのユニットから構成されている。AS レベルの取得には指定された 2~3 のユニットを学び合格する必要がある(科目によってユニット数は異なる)。その後 A レベルの取得には、さらに指定された 2~3 のユニットを学ぶ。このユニットは、A2 と呼ばれる。つまり、16 歳から 1 年間かけて AS レベル取得のためのユニットを学び、この段階で合格

すれば AS レベル取得となる。さらに A2 を 17 歳から 1 年間かけて学び、合格すると A レベル取得となるのである。このように、A レベルは AS レベルと A2 から構成されている。なお、履修科目数は、生徒により異なるが、AS レベル科目は 5 科目程度、A レベル科目は 3 科目程度履修するのが望ましいとされている。

大学への入学志願は各大学へ、ではなく、UCAS(大学カレッジ入学サービス)へ行う。志願の受付時期は、通常、中等学校最終学年が始まる 9 月から翌年 1 月頃までである。各大学の各コースは志願にあたっての条件(取得すべき GCE 科目とグレード)をあらかじめ公表している。基本的に 5 つの大学・コースまで志願することが可能である。なお志願にあたっては各大学の各コースはコース要件を設定している。これは取得すべき科目名、A レベルの科目数などである。各大学は、志願者に対して 3~4 月頃に合格・条件付き合格・不合格を示す。条件付き合格とは、5~6 月に実施される GCE A レベル等で条件を満たせば合格というものである。たとえば A レベルの数学でグレード B 以上、化学でグレード C 以上となれば合格というような条件である。その後、A レベル等を受験して、提示された条件以上の成績を修めれば合格となる。

韓 国

大学修学能力試験

韓国の大学入試のために実施されている共通試験で、英訳は College Scholastic Ability Test(CSAT と略)である。試験当日の朝にパトカーで試験会場に送迎され

る受験者がいたり、リスニング試験の実施時間帯(国語(韓国語)と英語の2回)には航空機の運航を止める措置が取られる等、日本でもその風景が報道されることがある。

CSAT は、韓国教育課程評価院 (Korea Institute of Curriculum and Evaluation : KICE) が管理・運営しているが、実施は高校が担当している。KICE は国の機関として発足したが、1998 年にエージェンシー化され、いくつかの試験を実施しているだけでなく、教育課程の策定にも関与している機関である。

以前は総合型試験であったが、2004 年からは 8 領域(言語、数理、社会探求、科学探求、職業探求、英語、第 2 外国語・漢文。計 48 科目)で構成される科目型試験となり、受験者は志願する大学の指定科目を選択して受験する。毎年 11 月中旬の 1 日間で実施され、追試験・再試験はない。各大学が実施する個別試験においては、実技や小論文、面接といった試験を行なうことが多いため、CSAT が主たる筆記試験(ただし、多肢選択式)となる。

CSAT の試験成績は、実施の約 1 ヶ月後に KICE から受験者と各大学に通知される。成績としては「素点」や「標準化得点(いわゆる偏差値)」、「百分率点」以外に、「等級点(Stanine と呼ばれる 9 段階のレベル)」が提供される。

私教育や塾・家庭教師への依存など、受験者の負担を軽減する目的で、CSAT を易しくして平均点を高くすることが考えられている。また、同様の目的のために、2012 年からは言語、数理、英語領域を必須とした最大で 5 科目程度の受験で

合否判定をするように受験科目数を減らす予定である(現状では難関大学の場合、7~8 科目を必要としている)。2013 年からは CSAT から英語領域を除外して、外部の英語検定 (TOEIC や TOEFL 等の認定試験) で行う予定である。

ドイツ

アビトゥア (Abitur)

ドイツの一般的大学入学資格をいう。この資格を取得すると、原則としてドイツのどの大学どの学科を問わず希望するところに入学できる権利が与えられる。ただし、進学率の増大により、1970 年以降、収容数の絶対的な不足や医学部などの特定専門分野への志望の偏りによって、この入学資格だけで入学者の決定をすることができなくなり、資格制度の理念に反して入学者数制限(「ヌメルス・クラウズス」という。)を導入せざるをえなくなった。そのため 1972 年に中央学籍配分機関 (ZVS) が設置され、ここが資格取得者の入学先を決める役割を果たしてきた。選抜基準については、何度か変更が加えられてきたが、その過程で、ZVS の役割は低下していった。現在は、2005 年に決定された配分手続きにより、(1)入学者の 20%がアビトゥア試験の得点によって選抜され、(2)入学者の 20%が待機期間によって選抜され、(3)残りの 60%は個別の大学の入学選抜手続きにより選抜される。従って、ZVS は、40%の入学者を配分する役割を担うのみとなり、個別大学の役割が大きくなっている。なお、外国人や障がい者などの志願者は、配分手続きには含まれず別枠で入学手続きが行えること

ランス語等の主要科目は4時間に及ぶ。そのため全体では約1週間をかけて行われる。

毎年の合格率は8割前後と全般に高い水準にある（2008年は中等教育バカロレア88%、技術バカロレア80%、職業バカロレア77%）。

試験に合格すると、高等教育入学資格が得られる。大学には、原則として無選抜で入学できる（どの大学も入学希望者が収容定員を大幅に上回っているため、実際には多様な基準で入学制限が行われる）。ただし、大学よりも、むしろグランゼコール準備級や上級テクニシャン養成課程（両者とも主要リセに付設の2年制課程）、技術短期大学部等を進学先として選択する学生も多い。これらはいずれもバカロレア取得後、書類選考等による入学者選抜を実施している。とくに学力優秀者の中には、グランゼコール準備級に進み、厳しい受験準備教育と入学試験を経て、グランゼコールへと進む者も多い。